

令和6年9月10日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

革新的GX技術創出事業（G t e X） 令和6年度新規研究開発課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、革新的GX技術創出事業（G t e X）における令和6年度の新規研究開発課題を決定しました。

本事業は、事業全体を統括するプログラムディレクター（PD）の下、日本の将来の産業成長と2050年のカーボンニュートラルを達成する上で重要な技術領域において、分野や組織を横断した全国のトップ研究者の連携体制を構築し、革新的GX技術の創出に向けた研究開発を推進します。

令和6年度の研究開発提案募集では、「蓄電池」領域の「将来的な企業投資が見込まれる革新電池創出に向けた研究開発」に該当する電池系のみを対象として公募し、以下の公募テーマにおいて1件の研究開発課題を採択しました（別紙）。

事業全体統括 プログラムディレクター（PD）：魚崎 浩平
蓄電池領域 プログラムオフィサー（PO）：桑畑 進
公募テーマ 4「軽量・小型・大容量を実現する電池開発」

今後、革新的な電池創出に向けて、技術課題とそれに対するアプローチを適宜見極めつつ、他チームとも有機的な連携を図り、領域全体として効果的な研究開発が実施できるよう領域マネジメントを行います。

事業および募集の詳細は下記ホームページを参照してください。
URL <https://www.jst.go.jp/gtex/>

<添付資料>

別紙：採択課題・プログラムオフィサー（PO）総評
参考：革新的GX技術創出事業（G t e X）について

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
波羅 仁（ハラ マサシ）
E-mail：[gtex\[at\]jst.go.jp](mailto:gtex[at]jst.go.jp) ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

採択課題・プログラムオフィサー（PO）総評

「蓄電池」領域

PO：桑畑 進（大阪大学 名誉教授）

公募テーマ	氏名	所属機関	所属部署	役職	研究開発課題名
軽量・小型・大容量を実現する電池開発	中西 周次	大阪大学	大学院基礎工学研究科	教授	軽量・小型・大容量を特徴とするリチウム空気電池の開発

※POの所属機関、役職は評価時点のもの
 ※採択者の所属機関、所属部署、役職は提案時点のもの

＜総評＞

本領域では、2050年カーボンニュートラルを実現する上での最重要技術の1つである革新的な次世代蓄電池技術開発のため、大学、国研、企業などが連携し、学理の構築から産業界における技術課題の解消までシームレスに取り組むチーム型の研究開発を推進します。

令和5年度は、社会から求められる性能を備えた新しい概念に基づく次世代蓄電池技術を実現するため、実用電池の革新、高安全性、資源制約フリー、軽量化、共通基盤といったテーマで研究開発提案募集を行い、7件のチーム型研究を採択しました。

令和6年度は、令和5年度に採択された研究開発課題における領域ポートフォリオを考慮し、「革新的GX技術創出事業（G t e X）」研究開発方針＜領域：蓄電池＞（令和5年4月文部科学省策定）において掲げられている「C. 将来的な企業投資が見込まれる革新電池創出に向けた研究開発」に該当する電池系の募集を実施しました。選考においては、科学的に優れたものであり革新性があるかという視点を重要視するとともに、温室効果ガス削減効果・経済波及効果に対して量的な貢献が期待できるか、また、電池としての最終システムを意識した研究開発が実施できるチーム体制となっているかといった観点も考慮しました。加えて、広い視野を持ち展開力のある人材を育成・輩出していくという本領域の目的も踏まえ、若手研究者の参画状況や国際連携への意欲についても考慮しました。その結果、1件を採択課題としました。

今後は、研究開発項目や研究開発体制の見直しといった柔軟な運営や、領域全体で効果的な研究開発を実施するためのチーム間連携に取り組み、成果最大化を目指したマネジメントを推進していきます。

革新的GX技術創出事業（G t e X）について

革新的GX技術創出事業（G t e X）の概要および各領域の詳細内容は、事業ホームページ（<https://www.jst.go.jp/gtex/>）にて公開しています。

事業趣旨

本事業は、日本の将来の産業成長と2050年カーボンニュートラルを達成する上で重要な以下の技術領域において、分野や組織を横断した全国のトップ研究者の連携体制を構築し、革新的GX技術の創出に向けた研究開発を推進します。

事業概要

本事業では、文部科学省が策定した「革新的GX技術創出事業（G t e X）」基本方針及び研究開発方針を踏まえ、日本のアカデミアの将来的な貢献が大きく期待できる領域として「蓄電池」「水素」「バイオものづくり」を設定し、大学・国研などのトップレベルの研究者がオールジャパンの統合的なチームで行う研究開発を支援します。領域設定については、基本方針などの改定や産業動向、研究開発動向などを踏まえて必要に応じて見直しを行います。

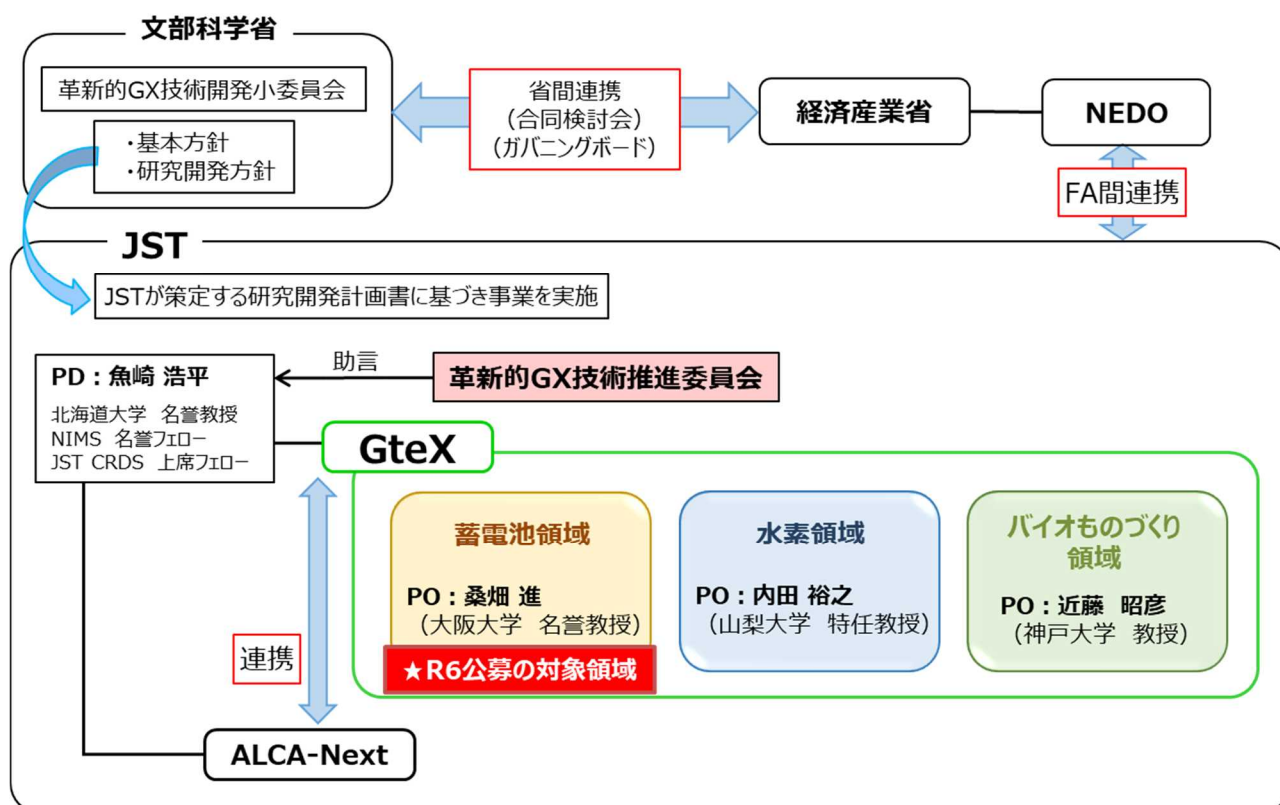


図 事業の体制